

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

国立民族学博物館蔵 篠田 統 資料目録 I

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2010-02-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/3475

読 書 ノ ー ト

[解説]

たいへんな博識のもちぬしであった先生は、和漢洋の古今の書籍に通じられていた。質問すると、たちどころに典拠をあげて答えられる先生の記憶力には皆がおどろかされたことであるが、その正確な知識はどうやら漫然とした読書によるものではなく、努力の結果のものでもあった。主として昭和20年代から30年代に書かれたとおもわれる読書ノートが残されている。重要だとおもわれた本を読むさいには、たんねんなメモをとっている。後年の読書ノートがないのは、349頁以下に目録をあげた文献カードに抜書きをするシステムに切りかえたからであろう。

読書ノートの形式はさまざまであるが、分量のおおいは、市販の日記帳を利用して書かれたものである。縦書きの升目の印刷されている日記帳の経を無視して、細かい文字で横書きにしたものである。また、手書きのノートだけではなく、関連資料を貼りつけたり、頁のあいだにはさみこむこともおこなわれている。

[凡例]

- 1) 1冊のノートにまとめて1冊の書籍が記されている場合は、表紙にタイトルがつけられている。
- 2) 1冊のノートに複数の書籍の読書メモが記されている場合がおおいが、このさい、そのノートに記されている書名を目次として表紙の裏などに書いた形式のものがある。このような場合、それを[目次]としてとりあつかった。
- 3) 原則として、[内容]の部分にはメモをとった本の著者名、書名、出版社名、発行年月日を記入した。このさい、もとのノートに記されているままに写してある。したがって、もとのノートにそれらの事項で記載されていないものについては、この目録からもはぶかれている。
- 4) []のなかに記載した事項は原本にはなく、編者が便宜のためにつけくわえた事柄である。
- 5) それぞれのノートが書かれた時期については記されていないが、そこに記載されている本の発行時期や、日記帳の刊行された時期などを編者が推定して、おおまかな年代順に配列した。

001 モリツィオ 食用植物史 I

菊判 手製本 横書き 246頁 (うち28頁は未製本の状態ではさみ込まれている)

A. Maurizio 著, “Histoire de l'alimentation végétale depuis la préhistoire jusqu'à nos jours” (先史時代から現代にいたる食用植物の歴史), Payot, paris 1932 の第1部の翻訳と第2部の抄訳, 第4～9部の目次を収録してある。この本は, 世界の諸民族が食用植物を歴史的に如何に利用してきたかその具体的加工法, 料理法も記述したもので, 先生も著作のなかにしばしば引用している。原本は『篠田文庫』にはない。この作業のおこなわれた年代は不明であるが, 昭和20年代のことと推定される。

[内容]

原本の書誌と, 第1部の目次をタイプしたもの(4頁)。

13章で構成される第1部「土地耕作が始まるまえの食用植物」の本文の翻訳文190頁。挿絵を模写したものもいれられている。植物名などはフランス語のまま記されているが, 原文に和名を付したのもも多い。

原本 606-628 頁の食用植物表を植物名はタイプで, その他の部分は日本語訳をして転写した部分(22頁)。

第2部の目次のタイプ(2頁)。

第2部第1章「穂刈り, 鎌の起源。穂の採集。落穂ひろい」の冒頭の翻訳, 第5章「致酔醸造。古代における Alcohol と食品の争闘。蜂蜜と蜜水。砂糖とデンプンと酒精。真正の酒精保護者」および第6章「低文化圏における醸酵飲料。地上に於る禁酒地域のかず」の翻訳(原本と対比できないので不明であるがおそらくこの部分は抄訳であろう)と第7章「スープとその誘導物。むすび」の冒頭の翻訳(合計22頁)。未製本ではさみこむ。

第4～9部(第3部は欠いている)の目次のタイプ(4頁)。

002 [無題 I]

A 5 変形判 横書き 204頁

原稿用紙の升目のある昭和16年の建設会社版の日記を転用。他に読書メモとして紙片16葉を挿入。また他のノート12頁分を補足している。収録された本の出版年から推定すると, 昭和20年代につくられたノートと考えられる。ほかにパンフレットの切抜き, 京都府のメモ, 待庵がはさんである。

[目次]

明治事物起源。食味の真髓を語る。続々美味求真。春日世家日記。美味求真。我国民間信仰史の研究。続美味求真。日本経済史。世界人は如何にたべつつあるか。図説

篠田統資料目録Ⅰ（読書ノート）

日本文化史大系 別巻。三田村鳶魚著作目録。日本文化史講座（近世）。日本寒貝抄。
日本菓子宝鑑。菓業必携。あまいはなし。

[内容]

- 『明治事物起源』 石井研堂 南堂 明41-1-1
『食味の真髓を探る』 波多野承五郎
『続々美味求真』 木下謙次郎 中央公論社 昭15-4-24
『春日社家日記』 永島福太郎
『美味求真』 木下謙次郎 啓成社 大14-1-8
『我國民間信仰史の研究』 堀一郎 大阪創元社 昭28-11-15
『続美味求真』 木下謙次郎 中央公論 昭15-4-20
『日本經濟史』 中村吉治
『世界人は如何にたべつつあるか』
『図説日本文化史大系 別巻』 創元社 昭29-10-5
『日本寒貝抄』 吉田敬 昭24-4-20
『日本菓子宝鑑』 大正5-4-10
『菓業必携』 田茂井秀次郎 昭4-5-21
『あまいはなし』 後屋敷保啓 昭21-9-15

003 [無題 II]

A 5 変形判 横書き 192頁

原稿用紙の升目のある昭和15年の建設社版の日記の転用。ほかに読書メモを紙片に記したものの21葉、「足袋史攷」遠藤武（A 5判、発行年月日、所収不明 雑誌の頁を破いたもの）、新聞の切り抜き3葉を挿入してある。収録された本の出版年から推測すると、昭和30年代前半につくられたと考えられる。

[目次]

食物風土記。茶懐石。包丁控。日本史研究事典。俎上の魚。たべもの味の百科。萩舟食談。舌鼓のうちどころ。日本文学に現われたものの運搬。お茶のすべて。すし。日本の歴史（日本のはじまり）。日本文化史講座（1）。中世住居史。風俗語解釈。建築学大系。日本劇場史の研究。浮世絵史話。

[内容]

- 『茶懐石』 辻嘉一 婦人画報7版 昭33-9
『俎上の魚』 末広恭雄・柳原敏雄 昭33-8-10 講談社
『日本史研究事典』 創元社 昭32

- 『たべもの 味の百科』 多田鉄之助 タヴィット社 32-7-10
- 『萩舟食談』 住吉書房 昭28-10-15
- 『舌鼓のうちどころ』 江原均 北辰堂
- 『日本文学に現われたものの運ばん』 宮野武雄 31-5-5
- 『すし』
- 『お茶のすべて』 34-1
- 『日本の歴史』 1, 日本のはじまり 34-1
- 『日本文化史講座』
- 『中世住居史』 伊藤鄭爾著 京大学術叢書14, '58-5-30
- 『建築学大系』 4, 日本・東洋建築史
- 『日本劇場史の研究』 須田敦夫 相模書房 35-5-20
- 『浮世絵史話』 檜崎宗重
- 『食物風土記』
- 書名, 発行年月日 著者不明, (内容から人相, 骨相学関係の本と思われる)
- 『日本の歴史』 1, 34-1 (書中の図, 地図を写したもの)
- 『国文故実風俗語集訳』 客儀服飾篇 昭10-4-20
- [日記にはさまれた新聞の切り抜き]
- 朝日新聞, 昭和34-10-13, 昭和35-11-6, 昭和36-5-8
- [日記にはさまれた印刷物]
- 「足袋史攷」 遠藤武 (A 5判 発行年月日, 所収不明 雑誌の頁を破いたもの)

004 楽久我記

A 5変形判 横書き 396頁

原稿用紙の升目のある1934年の新正堂版の日記楽久我記の転用。ほかに読書メモを紙片に記したもの9葉, 印刷物3葉を挿入してある。収録された本の出版年から推測すると, 昭和30年代後半に作られたノートと考えられる。

[目次]

日本全史 原始・考古学研究法・古生人類発掘。民衆生活史研究。日本女性史考。日本文学における生活史の研究。食物文化史。食物の真髓。日本百科年表。料理のこつ。味。舌。舌の散歩。上方落語の研究。飲食事典。随筆飲食日本史。日本の建築。日本民俗学大系, 生活と民俗 I。喫煙具 日本風俗史 I。江戸生活事典。味噌汁365日。

[内容]

『食生活』目次

篠田統資料目録Ⅰ（読書ノート）

『日本全史，原始』 斎藤忠 昭33-7 この間に『世界の歴史』1巻のメモが補足されている。

『民衆生活史研究』 西岡虎之助 福村書店 '48-11-10

『日本女性史考』 西岡虎之助 新評論社 昭31-5-20

『日本文学における生活史の研究』 西岡虎之助 1954-5-25

『歌謡からみた近世の農村経済』 「文学15-9」(1947)

『中世経済文学における村落生活』 「解釈と鑑賞」 1921-8

『近世田舎人の文学的感覚』 「文学1-2」1937-4

『食物文化史』 大塚力・青木英夫共著 昭32-3-13

『食味の真髓』 多田鉄之助 万里閣 昭26-8-1

『新日本史年表』 記紀，考古学 西岡虎之助 1955-12-20

『料理のこつ』 秋山徳蔵 有紀書房 昭34-3-31

『味』 秋山徳蔵 東西文明社 昭30-3-31

『味の散歩』 福井武生 産経新聞 昭31-4-10

『舌』 秋山徳蔵 東西文明社 昭32-6-10

『上方落語の研究』 前田勇

『みそ汁三百六十五日』 辻嘉一 婦人画報社 昭和34-11

『飲食事典』 本山萩舟 平凡社 昭33-12-25

『随筆的 飲食日本史』 本山萩舟 青蛙房 31-9-15

『日本の建築』 藤島亥治郎

『喫煙具と喫煙』

『食事・食器』 川端豊彦

『食品』 井之口章次

『食料の種類』 井之口章次

『食物の調製と貯蔵』 橋浦泰雄

『日本民俗学大系 生活技術』 「生活と民俗」昭33-4

『近世法史双書』 石井良助

『近世俳句大索引』 安藤英方

『改訂 強化食品学』 稲垣長史 第一出版 昭34-2-20, 35-6-30

『石器の口考』 昭37-7-15

[日記にはさまれた印刷物]

日本の庭園に関する書籍の発行案内。

柿についての雑誌の切り抜き。

005 [無題 III]

24.5×19 cm 横書き 153頁

『世界の果樹蔬菜』と題して植物に関する文献を集め筆写している。他に関連するB5判サイズのメモや、プリントが15枚はさみ込まれている。引用文献の発行年度から推定すると昭和30年代後半につくられたノートと考えられる。

[目次] なし

[内容]

「寒地において食用に供せられる野生植物」並河功・北村繁太郎・吉良竜夫『園芸研究』iii p.163～173 昭和21年11月

「東亜の果樹目録」寺見広雄『園芸研究』p.174～181

「RECONNAISSANCE SURVEY OF FRUIT TREES OF THE WORLD I TOTAL NUMBER OF FRUIT TREES」Tyozaburo TANAKA『園芸学会雑誌』第17巻第3・4号 p.224～230

[メモ]

「柑橘の花芽分化調査」

書状 1960年2月23日

書状 1960年1月29日

『MONOCOTYLEDONEAE』1960年

006 [無題 IV]

B6判 横書き 31枚

年月日不明 食物、風俗関係のメモ、洒落本の読書ノート同様、古文献からのメモと思われる出典不明。

007 洒落本 1

B5判 縦書き 77頁

洒落本の中から、風俗、食生活に関する必要事項の部分を抜き書きしたもの。他に、印刷物が1葉、紙片が7葉はさみこまれている。

[目次] なし

[内容]

『両巴卮言』 享保13 擊鉦先生。身毒浪人天魔擊鉦。遊戯堂主人。吉原

篠田統資料目録Ⅰ（読書ノート）

- 『史林残花』 享保15 遊戯堂主人 吉原
『瓢金窟』 延享4 烏有主人仮托作 大阪新町
『百花評林』 延享4 探花亭主人 大阪
『路婦人伝』 宝暦3 泥郎子＝山岡明阿弥＝俊明。深川入江町
『魂膽惣勘定』 宝暦4 石嶋政植 一般
『浪花色八卦』 宝暦6 外山翁 大阪
『月花余情』 宝暦6 戯笑閣主人 大阪島の内
『陽台遺編』 宝暦6 戯笑閣主人 島の内
『遊客年々考』 宝暦7 鮮仁軒
『聖遊廓』 宝暦7 大阪道頓堀
『穿当珍話』 宝暦7 八幡大名（献笑閣） 一般
『異本子六帖』 宝暦7 澤田東江 一般
『段彌味草紙』 宝暦9 鎮西翁 一般
『くたまき綱目』 宝暦11 不成山人 京都
『列仙伝』 宝暦13 先賢トナ 一般
『煙華漫筆』 宝暦 張葛居辰 葛鳥反（安永元） 大阪
『男倡新宗□々経』 宝暦 鎮西翁 大阪
『花路色童袂案内』 宝暦 京都
『閑居方言』 明和5 玩世道人 吉原
『郭中奇譚』 明和6 臼岡先生 吉原
『間似合早粹』 明和6 史魯徳斎 一般
『遊子方言』 明和7 田舎老人多田爺 多田屋利右エ門 吉原
『更の体』
『辰巳の園』 明和7 夢中散人寝言先生 深川
『蕩子釜枉解』 明和7 茶釜散人
『無量談』 明和8 盟嶋隠者覚蓮房 一般
『遊婦多数寄』 明和8 一般
『六丁一里』 明和 万事高慢仙 京都
『浪花今八卦』 安永2 備四郎軒 大阪
『陽台三略』 明和 鎗華子 鎗花子 田和子 方々遊里芝居 苦先生、品川、高輪
『当世気転草』 安永2 金金先生 明滅堂弁三二 内藤新宿
『当世風俗通』 安永2 金錦佐慌流

- 『南閩雑話』 安永2 夢中散人 品川
 『古今馬鹿集』 安永3 南好先生 品川
 『吉原細見里のをた巻評』 安永3 風流来山人 吉原
 『擲錢青楼占』 安永3 金比羅山人 讃岐
 『婦美車紫鹿子』 安永3 浮世偏歴斎道郎苦先生 品川・高輪
 『甲馱新話』 安永4 風鈴山人 四谷内藤新宿
 『寸南破良意』 安永4 靈岸島（こんにゃく嶋）
 『青楼栄種』 安永4 雲中金山蝶 本所回向院前の岡場所
 『後編女風俗通』 安永4 金錦先生
 『虚誕伝』 安永4 虚誕堂□手古山人 一般
 『東都青楼八詠並略記』 安永4 瀬臥散人
 『契国策』 安永5 無名子 岡場所品川
 『当世爱かしこ』 安永4 御無子磨春記
 『当世左様候』 安永5 無物磨別世界 一般
 『風流裸人形』 安永7 大阪
 『桜川微言』 安永6 北斎 芝愛宕山下水茶屋
 『妓者呼子鳥』 安永6 田にし金魚 日本橋橋町 京都木挽町・女芸者
 『郭中掃除』 安永6 □道人
 『ことぶきぐさ』 安永6 湖上丸吞
 『大通伝』 安永6 高慢斎
 『中川雀』 安永6 道□散人無玉 中川
 『売花新駅』 安永6 □□館主人 山崎景貫。新宿。
 『野路の多和言』 安永7 楽山子
 『一事千金』 安永7 田にし金魚 吉原
 『十八大通百手枕 傾城買指南所』 安永7 田水金魚
 『□情買虎の巻き』 安永7 田深金魚 吉原
 『淫女皮肉論』 安永7 田水金魚 深川・吉原・品川・新宿
 『広街一寸間遊』 安永7 献笑軒 山下（岡場所）
 『大通秘密論』 安永7 夢中庵 吉原
 『南江駅話』 安永7 北左農山人 品川
 『伊賀越増補合羽之龍』 安永8 蓬萊山婦橋
 『無礼通説法』 安永8 杜選大和尚

篠田統資料目録 I (読書ノート)

- 『女鬼産』 安永 8 無氣しつちう 一般
『蚊不食呪姐曾我』 安永 8 桃栗山人排発才
『雑文穿袋』 安永 8 朱口館主人
『廻覧奇談深遠情』 安永 8 楓陵 一般
『酔婆夢中』 安永 8 一米遊 一般
『大通愛想盡』 安永 8 中橋狸吉 一般
『大通法話』 安永 8 可客
『大抵御覽』 安永 8 朱口館主人 待乳山三橋亭 中洲 高田・富士
『南客先生文集』 安永 南楼坊路?
『風流廓中美人集』 安永 8 柿本暗丸 吉原
『百安楚飛』 安永 8 時雨庵主人 吉原
『深川新話』 安永 8 山平馬鹿人 太田蜀山人 深川
『美地之蛎壳』 安永 8 深川 蓬萊山人婦橋 深川
『家暮長命四季物語』 安永 8 蓬萊山人婦橋 深川
『呼子鳥』 安永 8 鷺鳥亭 品川・山下
『龍虎問答』 安永 8 蓬萊山人婦橋 吉原
『辯蒙通人講釈』 安永 9 指南物 口巽軒
『客者評判記』 安永 9 桃栗山人柿発斎
『廓中名物論』 安永 9 宗量斎
『神代摺昧論』 安永 9 泉花堂三蝶
『当世似山気登里』 安永 9 上戸庵醉人狂
『嘶之画有多』 安永 9 南陀加紫蘭 窪田春口 吉原
『隣壁夜話』 安永 9 一婦坊
『大通俗一騎夜行』 安永 9 年 志水率
『多荷論』 安永 9 茶にし金魚
『多圭余字辞』 安永 9 不浮散人 品川
『玉菊灯籠弁』 安永 9 南陀加紫蘭 窪田俊口
『根柄異軒之伝』 安永 9 著々羅山人
『芳深交話』 安永 9 深川
『風俗砂払伝』 安永 9 時雨庵山人
『初葉南志』 安永 9 吉原・深川・品川・堺町

[ノートにはさまれた紙片]

食品名（統計をとったと思われる）

[ノートにはさまれた印刷物]

「難波津」No. 32, 1967・4

008 洒落本 2

B 5 判 縦書き 58頁

洒落本の中から、風俗、食生活に関する必要事項の部分を書き出したもの。

[内容]

- 『遊婦里会談』 安永 9 蓬萊山人婦橋 一般
 『金枕遊女相談』 安永 9 無署名
 『狐の藻』 安永 噂話 無署名
 『咲分論』 安永年間 竹窓
 『粋町甲閨』 安永 6・7? 山手の馬鹿人 新宿
 『世説新語茶』 安永 6 以前 山手の馬鹿人 蜀山人 谷中いろは茶や
 『大通多名於略志』 安永 閑言□山人
 『太平楽巻物』 安永 天笠老人
 『駅者三友』 安永 8? 秩部紀南子 新宿
 『変通経井茶話』 安永 山の手馬鹿人 軽井沢
 『通志選』 安永 6 世満里南鎌（当世六知鳥の改作）
 『里鬻風話』 安永 10 明和 7, 8 風来山人
 『記原情語』 天明元 蓬蕩
 『傾城異見之規矩』 天明元 噂話 堪忍庵呉陵□
 『公大無多言』 天明 1 指南 行成山房大公人
 『真女意題』 天明 1 森羅万象 芝神明
 『当世繁栄通寛』 天明 1 繁盛院隋羅斎
 『通仁枕言葉』 天明 1 蓬萊山人婦橋 深川仲町
 『突当富魂短』 天明 1 西奴
 『にやん事だ』 天明元 止動堂□呑
 『三都仮名話』 天明 1 閨厘坊 葺屋町塔町の大火
 『無陀物語』 天明 1 □□山人
 『風俗問答』 安永 5 劉道酔・多狼山人 世相
 『娼妃地理記』 安永 6 道陀楼麻阿 吉原
 『当世穴知鳥』 安永 6 松寿軒東朝

篠田統資料目録Ⅰ（読書ノート）

- 『雲井草紙』 天明1 北斗先生 通
『新吾左出放題盲牛』（品川海苔はこの改題）天明1 大盤山人偏直 通
『通人三國師』 天明1 夢中東介 吉原 岡場所
『ゑ世物語』 天明2 止働堂馬呑 伊勢古市
『古今三通伝世相』 天明2 夢中庵江陵散人
『こんたん手引ぐさ』 天明2 青木氏 買指南
『世界の幕なし』 天明2 本膳亭坪平 坪比良 恵居
『当世導通記』 天明2 天竺老人 道中記
『通人の寝言』 天明2 桃栗山人 烏亭焉馬 吉原
『つれつれ酔か川』 天明2 西口甚三郎酔川子
『登美賀遠佳』 天明2 豊川里舟 深川
『蛇蛻青大通』 天明2 天竺老人 下界隠士 森羅万象 一般
『富賀川拝見』 天明2 蓬萊山人帰橋 深川
『深弥満於路志』 天明2 烏可鳴 指南
『山下珍作』 天明2 十津奈蒔野馬乎人上の山下
『金錦三調伝』 天明3 早田五猿 東叡山下三橋櫓の楊弓店 新吉原
『愚人贅漢居続借金』 天明2 蓬萊山人帰橋 深川
『傾情知恵鑑』 天明3 雲口山人 買指南
『傾城懐嘶』 天明5 一艸亭百馬 仮宅
『濟都酒美選』 天明3 志水率
『柳巷訛言』 天明3 嘶本 明誠堂喜三二
『（通神孔釈）三教色』 天明3 和泉屋源蔵 新吉原 唐口参和
『集口本紀』 天明4 島田金谷 江戸自慢
『角雞卵』 天明4 月亭可笑 内藤新宿
『浮世の四時』 天明 阿陀伽紫蘭 仮宅
『残座訓』 天明4 鈍九斎章丸
『太平楽記文』 天明4 烏亭焉馬 髪結条
『二日酔卮觥』 天明4 万象亭森羅万条芝居
『誰が袖日記』 天明5 宝嘉僧 中出長右ヱ門 江戸橋町の女芸者の口文
『大通とらの巻』 天明5 下界陰士 森羅万象 指南書
『深川手習草紙』 天明5 十方茂内 深川衷櫓
『和唐珍解』 天明5 康来参和 長崎丸山

『令子洞房』 天明5 山東京伝 指南

009 洒落本3

B5判 縦書き 59頁

洒落本の中から風俗・食生活に関する必要事項の部分を書きしたものを。

[目次] なし

[内容]

『無駄酸辛甘』 天明5 千差万別 万障亭門人 吉原行

『客衆肝照子』 京伝 世相

『短華薬葉』 天明6 玄十 大阪

『其あんか』 天明6 中橋散人 深川仲町

『人遠茶懸物』 天明6 一払斎 大伊寛十郎 芝□□

『服神卒語録』 天明6 万象亭 吉原

『無弾砂子』 天明6 多羅福孫左エ門 世相

『田舎芝居』 天明7 万象亭 越後国大□郡妻有口南鑑坂村

『古契三娼』 天明7 京伝 吉原・深川・品川

『通言絵籬』 天明7 京伝 穴さがし

『不仁野夫鑑』 天明7 京□山人 医者

『面美知之娼』 天明7 南朝山人 品川

『一向不通替善運』 寛政6 山□蜂□ 富本のケイコ所

『虚実情夜桜』 天明8 梅松亭庭鷺 郭生活

『一目土堤』 天明8 内新好 内田屋新太郎、帆搦屋主人 本所一ツ目（本所十歳町）回向院前の八兵エ屋敷

『傾城鱷』 天明8 京伝

『女郎買之糠味噌汁』 天明8 赤蜻蛉 中洲

『青楼五ツ雁金』 天明8 梅暮里谷峩梅月堂主人 吉原

『曾我糠袋』 天明8 京伝 吉原 唐州

『夜半の茶□』 天明8 山東鶏吉

『吉原楊枝』 天明8 京伝 指南

『自惚鏡』 寛政1 楓鷺亭 北廓

『廓大帳』 寛政1（天明9）京伝 吉原

『志羅川夜船』 寛政1 吉原

『通気粹語伝』上編 寛政 京伝 吉原

篠田統資料目録 I (読書ノート)

- 『中洲の華美』 寛政 1 内新好 仮宅
『南極駅路雀』 寛政 1 逸我 品川
『双床満久羅』 寛政 1 山手山人
『京伝予誌』 寛政 2 京伝 世相
『傾城買四十八手』 寛政 2 京伝
『繁千話』 寛政 2 京伝
『田舎談義』 寛政 2 竹口東子
『格子戯語』 寛政 2 振鷺亭 深川
『傾城真之心』 寛政 2 心口指南
『染抜五所紋』 寛政 2 梅月堂棍人
『文選臥坐』 寛政 2 狂爾湖舟 谷我

010 洒落本 4

B 5 判 縦書き 61頁

洒落本の中から風俗・食生活に関する必要事項の部分を書き出したもの。他に紙片
15葉がはさまれている。

[目次] なし

[内容]

- 『仕懸文庫』 寛政 3 京伝 深川
『傾城診種』 寛政 2 泥田坊夢成
『傾城絹籠』 寛政 3 京伝 吉原
『錦之裏』 寛政 3 京伝 吉原五ツ時一七ツ時
『酔の筋書』 寛政 6 凜見屋凜楽 大阪新町・島の内・新池・新堀・新屋敷
『北廓鶏卵方』 寛政 6 吉原 百一誌
『養漢裸百貫』 寛政 8 醉川子 京都
『仮根草』 寛政 7 紅月楼 深川 (吉原仮宅)
『廓の池好』 寛政 8 石橋庵増井 三河・池鯉鮒
『名所拜見』 寛政 8 紀橋柳下 芝明神・深川古石場
『うかれ草紙』 寛政 9 広莫野人 鹿百川堂藩河 京都ギオン
『廓通遊子』 寛政 9 藍江 吉原
『戯言浮世瓢箪』 寛政 9 呉句堂 京都
『十界和尚話』 寛政 9 酒屋橘子 道頓堀・斯波新地・南赤町・島の内
『阿蘭陀鏡』 寛政 10 借着行長 京都祇園

- 『傾城買二筋道』 寛政10 梅蓉里谷峨 吉原
 『辰巳婦言』 寛政10 三京 深川
 『来芝一代記』 寛政9 指南
 『廓節要』 寛政11 楽亭馬笑 三馬補 吉原
 『傾城買談客物語』 寛政11 三馬 吉原丸 吉原
 『契情買言告鳥』 寛政12 谷峨 吉原
 『二筋道 三篇 零の程』 寛政12 谷峨
 『昇平楽』 寛政12 白舟 大阪
 『青楼真廓誌』 寛政12 松葉亭 吉原 西河岸・小谷
 『大同契語』 寛政12 笹浦鈴成 新宿
 『通俗子』 寛政12 昌平庵□橋

[ノートにはさまれた紙片]

食品名の統計

011 洒落本 5

B 5判 縦書き 58頁

洒落本の中から風俗・食生活に関する必要事項の部分を抜書きしたもの。

[目次] なし

[内容]

- 『南遊記』 寛政12 最一拳六 大阪
 『白狐通』 寛政12 谷峨 □□譚
 『風俗通』 寛政12 松風亭如琴 深川
 『松登妓話』 寛政12 鸚鵡齊貢 吉原
 『廓数可佳妓』 寛政12 成三鳳楼茶 神田あつ丸枝
 『遊ふへの茶から』 寛政12 艶示楼主人 深川
 『遊僊窟烟の花』 寛政7 薄倅先生
 『御膳手打翁曾我』 寛政年間刊 振鷺亭
 『面美多勤身』 寛政 廓通交同集交作 深川
 『客衆一華表』 寛政 (関東米作) 振鷺亭 深川
 『玉の蝶』 寛政 関東米作 深川
 『孔雀梁勤記』 寛政 山□亭主人
 『契情実之巻』 寛政 井之裏楚登美津 吉原
 『契情実之巻』 後編 (稿本) 文化元 減放晦六九 楚登美津

篠田統資料目録Ⅰ(読書ノート)

- 『取組手鑑』 寛政 関古米作 切見世
『秘事真告』 寛政 普穿山人 大阪
『部屋三味線』 寛政 流女それがし 吉原・深川
『見通三世相』 寛政 8 振鷲亭
『不粹照明房情記』 寛政 深川と吉原
『良夜静搔』 寛政 藍川風過 吉原
『仇手本』 享和元 小金あつ丸 深川
『色講釈』 寛政 13 享和元 一九 柳橋 吉原
『恵比良濃梅』 享和元 一九 吉原
『嘉和美多里』 享和元 擔柴樵夫
『甲子夜話』 享和元 谷峨 吉原
『廓の桜』 享和元 谷峨 吉原
『匂ひ囊』 享和元 塩屋艶二 吉原
『比翼球』 享和元 宇田京庵嬉丸』

012 洒落本 6

B5判 縦書き 77頁

洒落本の中から風俗・食生活に関する必要事項の部分の抜書きしたもの。他にハガキ1枚と紙片1葉がはさみこまれている。

[目次] なし

[内容]

- 『(月雪) 二蒲団』 享和 2 酔醒水吉 内藤新宿
『三千の紙屑』 享和 2 うくひす谷自眠仮宅
『野良の玉子』 享和 1 一九 吉原
『夢の盗行』 享和 2 谷峨 吉原
『姫意忪思』 享和 2 谷峨
『商内神』 享和 1 一九 吉原
『穴可至子』 享和 2 富久亭 吉原
『祇園祭礼桃燈蔵』 享和 2 蘭奢亭香保留 品川
『起承転合』 享和 2 一九 吉原
『妓情返夢解』 享和 2 谷峨
『野狐于宝這入』 享和 2 一九 吉原
『廓意気地』 享和 2 一九 吉原

- 『婦足齋』 享和2 成三楼主人 吉原
 『戯作評判花折紙』 享和2 十文字舎目恐菊屋蔵伎・並木新作 合作 深川 塩屋
 艶二
 『滑稽遊治郎』 享和2 一九 吉原
 『意妓口』 寛政年間 振鷺亭 深川
 『嫖客三昧誌』 享和2 塩屋艶二
 『倡客窺学問』 享和2 一九 吉原
 『青楼娼言解』 享和2 蘭奢亭主人香保留
 『青楼小鍋三』 享和2 成三楼主人 吉原
 『青楼日記』 享和2 白陽東魚 吉原
 『青楼松の裡』 享和2 一九
 『通神戯』 享和1 小金あつ丸
 『後編香之袋』 享和2 塩屋艶二
 『甲駄雪折笹』(稿本) 享和3 酒艶堂一醉 新宿
 『甲駄夜の錦』 享和3 宇治茶屋 内藤新宿
 『(岡目八目) 佳妓窺』 享和 小金あつ丸 深川
 『廊瞻競』 享和3 小金あつ丸 仮宅
 『魂膽胡蝶枕』 享和2 著条斉広長 浅草 吉原
 『酒徒雅』 享和3 衛いじ 吉原
 『(南門) 兎婦』 享和2 塩屋主人 品川
 『素見数子』 享和2 一九 吉原
 『吉原談語』 享和2 一九 吉原
 『富岡八幡鐘』 享和2 かはきち 深川
 『(当世) 嘘之川, 空言の河』 文化1 粹川子
 『傾城買花角力』 文化1 菊黄金雲裡
 『叶福助畧縁起』 文化2 振鷺亭 両国
 『面和俱嘶』 文化3 達楼亭主人 四谷新宿
 『船頭深話』 文化3 四季山人 深川
 『一盃記言』 橋本 文化4 五岳亭

[ノートにはさまれた紙片]

事柄に関するメモ

[ノートにはさまれた葉書]

篠田統資料目録Ⅰ（読書ノート）

昭和42年5月13日付，岩田浩太郎宛，篠田統出。

013 洒落本 7

B5判 縦書き 36頁

洒落本の中から風俗・食生活に関する必要事項の部分を書き出したもの。

[目次] なし

[内容]

- 『やまあらし』 文化5 種彦 浅草
『婦身嘘』 文化3 稿本 陶器求編成 深川
『青楼快談』 文化7 玉里語言 吉原玉屋 玉斎笑馬
『花街鑑』 文化9 玉菊
『青楼女庭訓』 文化6 鼻山人
『傾城情史』 天保3 関亭京鶴
『竊潜妻』 文化4 盛田小塩
『意気客初心』 天保7 山月庵主人 関亭京鶴
『粹好伝夢枕』 文化12 市中庵 神戸湊川
『籬の花』 文化14 白果山人 吉原
『妓娼情子』 文政 鶯蛙山人 新吉原
『船頭部屋』 文化4 猪牙散人 深川
『吉原帽子』 文化 煙花浪子
『夜廊行灯』 文化 桃猿舎犬雉
『四十八手後之段』 一京伝居士談一 文政1 馬鹿山人
『廓宇久為寿』 文化1 鼻山人
『五臓眼』 寛政 山旭亭主人 深川
『漢讚極史』 寛政 千代丘芋菴主人 社会層
『三人酩酊』 寛政11 三多楼主人
『品川海苔』 寛政 関東米作 品川 吉原
『青楼惚多手買』 寛政 異双楼花咲 庵蜂満校舎 吉原
『通俗雲段』 寛政 雲雀亭春磨 吉原

014 栽培植物起源論Ⅱ

26.5×21 cm 大学ノート 横書き 82頁

ド・カンドール著，加茂儀一訳の「栽培植物の起源」を写したもの。

[内容]

各植物の学名，原産，分布を70種類にわたって記している。

015 栽培植物起源論 III

B5判ノート 横書き 44頁

ド・カンドール著，加茂儀一訳の「栽培植物の起源」を写したものを。

[内容]

各植物の学名。原産。分布を42種類にわたって記している。

016 西鶴本

B5判 横書き 176頁

西鶴の作品の中から，食物，動植物，道具等に関する部分を抜書きしたもの。19葉の紙片がはさみこまれている。

[目次]

一代男。二代男。西鶴諸国咄。近代艶陰者。五人女。一代女。本朝二十不孝。男色大鑑。懷硯。武道伝来記。武道義理物語。日本永代蔵。新可笑記。本朝桜陰比事。

[内容]

西鶴の作品の成立年代，性格付け。『一代男』『二代男』『西鶴諸国咄（大下馬）』『近代艶陰者』『五人女』『一代女』『本朝二十不孝』『男色大鑑（本朝若風俗）』『懷硯』『武道伝来記』『武道義理物語』『日本永代蔵』『新可笑記』『本朝桜陰比事』から，食物，食器，花，風俗に関する部分を抜き出したもの。

[ノートにはさみこまれた紙片]

『五人女』『桜陰比事』『男色大鑑』の風俗に関する抜書き。抜書きについて調べたもの。「日本歴史」45-1月号のメモ。